



NPO PTPL “ともいき” 便り No.117

平成 29 年 (2017 年) 2 月 18 日発行

■雨水 (うすい) 2 月 18 日から 3 月 4 日までの節気

今号も、蕪村の句をいくつかご紹介します。

以下の蕪村の句は、やや早春の感があるようです。花はまだ梅。桜はもう少し後になります。

●菜の花や 月はおぼろに 日は西に

あまりにも有名な蕪村の句です。たぶん、小学校のころに耳にして覚えた一句。きっと皆さまもご記憶のことでしょう。

春の夕方、ゆっくりゆっくり、西に沈んでいくお月さまを見送っています。ふと、振り向くと東の空に、まだお日さまが残っている。お日さまは、一日の仕事を終えて、夜の世界に沈んでいくのが、なにやら名残惜しそう。

「お日さま、ご苦労さまでした」と、ご挨拶したくなりますね。

太陽と月、天が私たちに下さった、大いなる自然の贈り物。とくに月は、古くから日本人に敬愛されてきた、いわば「宝物」でした。

「竹取物語」は平安時代から語り伝えてきた、独特の物語。西洋には見られない、優美な文学でした。

ふと、こんなことが思い出されました。ひとりのおばあ様が、西に沈む月に向かって手を合わせ、静かに祈っておいででした。どんな祈りだったでしょう。昇る太陽を拝むのは、「ご来光」を拝むとして馴染みのある行為ですが、沈んでゆく太陽に、一日の感謝を捧げるこのおばあ様。なんとなく美しく、優しい心根でしょう。「ともさち」という心を思います。

●喰うて寝て 牛になればや 桃の花

まだ小学生だった頃、食後に、つい、ごろんと横になったりすると、「勇(ぼくの名前)、食べてすぐ寝転んだりすると、「牛」になりますよ。起きなさい」と、母に注意されたものでした。いまは昔、の思い出です。

●鶯（うぐいす）の たまたま啼（な）くや 花の山

昔から、鶯の美しい美しい鳴き声。あの「ほう ほけきよ けきよ♪」に出会えるのは、珍しいことだったのでしょうか。蕪村さんは、「たまたま」と書いていますから、江戸時代でさえ稀なことだったのでしょう。

そうそう、「花の山」とありますが、むかし「花」といえば「梅」のことでした。さくら、とくに「ソメイヨシノ」と呼ばれる桜が、人々に愛され、好まれるようになったのは、江戸も末期になってからのようです。

と、いうことは、いわゆる「お花見」という楽しみは、つい最近のことなのかもしれませんね。

「花見」といえば、当時は、まず「上野」でしょうか。寛永寺の鐘が「ぼーん」と鳴りわたる風情は、しゃれたものだったことでしょう。日本人の多くが、まだ「和服」で暮らしていたころの「お花見」。さぞ、すてきで、艶やかなものだったに違いありません。夏目漱石さんのころでしょうか。漱石先生も、お花見が大好きだったに違いないと、思います。

漱石先生は、おしゃれな方でしたし、俳句も好まれていましたから。

●商人（あきんど）を 吼（ほ）ゆる犬あり ももの花

まだ、百貨店のなかった時代、商いはいわゆる「行商」で商品売りさばいていた、と思われまふ。よく通る声で街の住人に声を掛けていたのでしょう。シジミ売りなども、その一種だったに違いありません。

「シジミや、シジミ・・・・」と呼びかけていたのでしょう。

いたずら好きな子どもたちは、「シジミやシジミ、あっさり死じまえ」などと、意地悪に、からかっていたようです。子どもの遊びとはいえ、営業妨害。困った遊びですね。こんな風情もいまでは、どこにも見られません。生活文化や道徳の進化の証拠といえるのでしょね。

こっそり、ぼくの気持ちを洩らせば、文明文化が進むと、なにやら生活の風情は「つまらないもの」になってしまうようです。ちょっぴり、「残念だなあ」という気分。しかし、「口は災いのもと」と、先人は戒めています。やっぱり「遊び心」には気をつけましよう。

●日はくれよ 夜（よ）夜明けよと 啼く蛙（かわず）

春を知らせる風物には、いろいろな「自然」があります。まずは花たち。梅、桜、タンポポ、水仙などなど。それに若々しく美しい緑の柳のみどり色。「柳、

桜をこき混ぜて、都の春の錦なりけり」という、昔の京都のおしゃれな人の情感が思い出されます。節気ごとに、微妙に変化する日本の自然。弓型にそっている日本列島ならではの「自然」に育てられてきた日本人。自然への感謝の念も胸に浮かびます。

さて、これらは植物ですが、蕪村さんは「声」にも耳を傾けていました。

「ギャワロ ギャわろ、ギャワロ、ロロリ・・・」と書いたのは、カエルの詩で著名な詩人「草野新平」さんでした。私の大先輩の詩人です。

蕪村さんの詩情と共に、2017年の初春を楽しく過ごしたいと思います。まもなく「春分」。昼は長くなり、太陽は高く輝き、心を、胸を大きく開きたい気持ちに誘います。世界に例のない日本の春を感謝と共に、心ゆくまで楽しみ、味わいたいと思います。

朝倉 勇 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事)

■ともいき・ともうみ・ともさち、そして和 雑感彼是

極めれば萌す

2月3日の節分を過ぎ、2月4日から立秋の入り、「寒中見舞い」は「余寒見舞い」となります。「極めれば萌す」、つまり、日一日と薄皮をはがすように寒気が薄らいでゆくのを感じる時季ですが、今年は強い北、北西の風の日が多く、寒気が日本列島を覆い寒い寒い日が続いています。

しかし、梅も咲き、ソメイヨシノやヤマザクラはまだまだですが、早咲きの桜（河津桜、カンヒザクラ）は咲き始めました。木の芽、花芽もしっかりと認知でき、このような寒い毎日でも、春は遠からず、春の兆しが見えています。

日本には24の気の季節、72の候の季節があります。自然の移ろいを感じて生活する、自然との限りない調和を求めて生活をするという日本人の志にぴったりした暦ですね。

ジャパネスク



勝田 祥三 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事長)

■事務局だより

●是非、NPO PTPL が企画制作運営するサイト・FB をご覧ください。

「NPO PTPL 公式ホームページ」：<http://www.plantatree.gr.jp/>

「ジャパネスク」：<http://www.japanesque.tokyo/>

「ともいき暦」：<http://www.tomoiki.ptpl.or.jp/calendar/2016/>

「ともいき ぐらし」：<https://www.facebook.com/tomoikigurashi>

「おらが富士 計画 ふるさと山」：<https://www.facebook.com/oragafuji/>

「不思議・驚き・魅力のジャパネスク」

<https://www.facebook.com/japanesque.tokyo/>

●NPO PTPL は「ジャパネスク運動」推進中です。

ぜひ、「ジャパネスク」サイトのメニューのひとつの「ジャパネスク語り」

(<http://www.japanesque.tokyo/katari.html>) をお読みください。

●会員募集のご案内

NPO 活動を推進していくためには、多くの皆さま方のご支援・ご協力が不可欠です。

NPO PTPL では、常時、個人会員と法人会員を募集しています。この便りをお読みの方で、ご本人またはお知り合いの方々にご案内いただければ幸いです。

詳しくは下記まで、メールまたはお電話・FAX にてお尋ねください。

NPO PLANT A TREE PALNT LOVE 事務局

〒105-0001

東京都港区虎ノ門 3-3-3 虎の門南ビルスタンダード会議室虎ノ門南店 4 階—A

電話：03-6459-0264 FAX；03-6459-0284

Email：info@ptpl.or.jp